

研究主題

特別支援学校における センター的機能の充実に関する研究

—多様なニーズへの対応を可能にする校内体制の確立を通して—

【研究担当者】 長期研修生 山根 基義
(所属校 岩手県立花巻清風支援学校)

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562

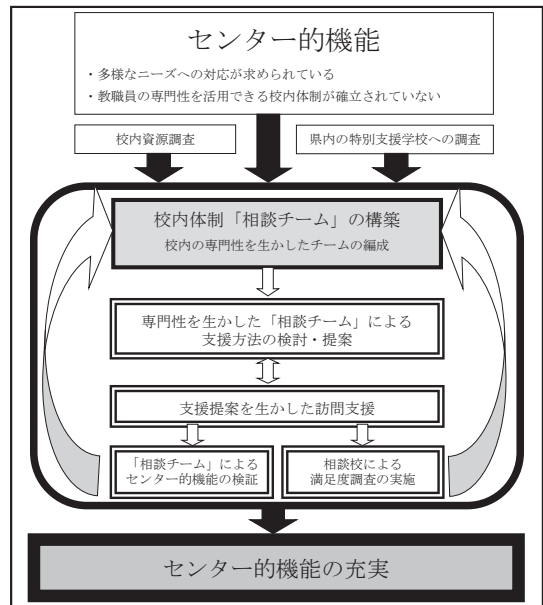
E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

I はじめに

特別支援学校におけるセンター的機能は、小・中学校等からの特別支援教育に関する、相談対応をしています。しかし、相談対応は特別支援教育コーディネーターや支援センター部の担当教員に限られていることが多く、支援センター部以外の教職員の専門性を活用できる校内体制が確立されていない現状です。

このような状況を改善するために、支援センター部の担当者と支援センター部以外の教職員を加えた「相談チーム」を編成します。相談チームで支援の手立てを検討することにより、多様なニーズへ対応していくことが可能になると考えました。

本研究は、特別支援学校におけるセンター的機能の取組において、教職員の専門性を十分に活用した相談チームによる対応の在り方を探り、相談の実践を通して、その有効性を明らかにするものです。

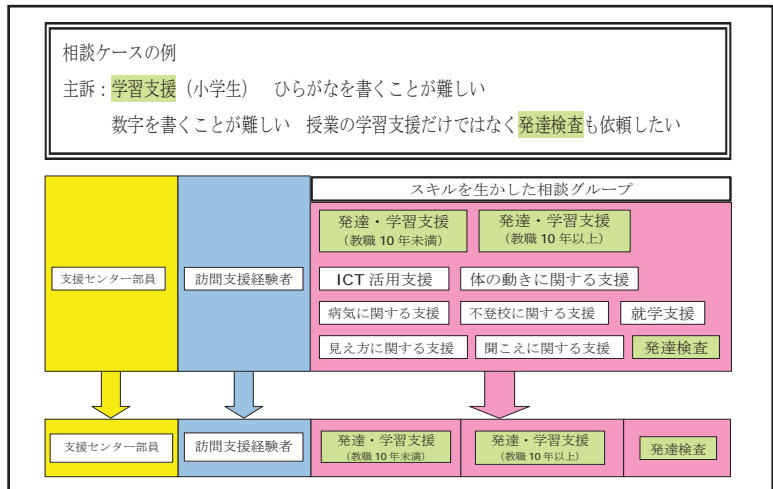


【図 1】研究構想図

II 教職員の専門性を十分に活用した「相談チーム」による対応

相談チームを編成するために、校内資源調査を実施しました。その結果を生かして、教職員の専門性や支援の経験を踏まえたカテゴリーに分けました。

相談チームのメンバーは 5 名程度にし、支援センター部員が中心となります。【図 2】のように、ケースに応じて、訪問支援経験者や訪問支援未経験のスキルを生かした相談グループからメンバーを選定して、編成します。ケースによっては、支援センター部員や訪問支援



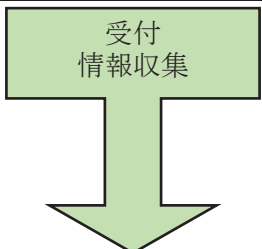

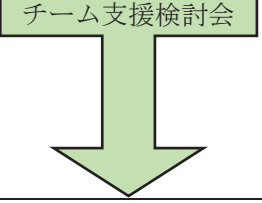


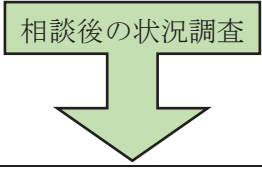
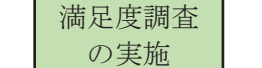
【図 2】相談チーム編成例

経験者、スキルを生かした相談グループから複数編成することを可能とします。

III 相談チームによる訪問支援の流れ

相談チームによる訪問支援の流れは【表1】のとおりです。

【表1】相談チームによる訪問支援の流れ

 <p>受付 情報収集</p>	<ul style="list-style-type: none"> 副校長，または支援センター部長が窓口となり，学校名や学年，大まかな主訴について聞きます。そこで，訪問支援チェックリスト①【図3】の回答を求めて，書面で受け付けを行います。 支援センター部長は，訪問支援チェックリスト①【図3】を踏まえて，詳細な情報を収集するために訪問支援チェックリスト②【図4】の記入を相談先に依頼します。
 <p>相談チームの編成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 受付で得た情報と校内資源調査の結果を踏まえて，支援センター部長がケースに応じて「相談チーム」を編成します。
 <p>チーム支援検討会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支援センター部員は，チーム支援検討会を開催する日程調整を行います。また，訪問支援日の日程調整を行うために相談者と連絡を取ります。 チーム支援検討会では，訪問支援チェックリスト①【図3】，②【図4】の結果や，支援センター部員が相談者から得た情報をもとに，具体的な支援の手立てについて検討を行います。
 <p>訪問支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支援センター部員が授業参観や，児童生徒と関わることにより，アセスメントします。 カンファレンスを実施して，相談チームで検討された支援の手立てについて提示します。相談者と児童生徒の支援の手立てを共有します。
 <p>報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支援センター部員は訪問支援の様子を，副校長や支援センター部長、相談チームメンバーへ報告します。 訪問支援の様子は相談ケースシート【図5】に記録します。
 <p>相談後の状況調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支援センター部員は，相談者と連絡を取り，訪問支援後の状況を調査します。そこで，相談内容について改善が見られたかどうか，情報共有します。 ※継続した支援が必要な場合は，「チーム支援検討会」を再度開催し，チームで支援の手立てを確認したり，再検討したりします。
 <p>満足度調査 の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相談先の学校へ対して，満足度調査を実施します。相談先の学校の声をひろい，センター的機能が向上するよう努めます。

センター的機能の訪問支援を申し込みます(添書不要)
必要事項をご記入の上、下記に電子メールアドレスにご連絡ください
 行書部@a-nishitokyo.ac.jp

センター的機能 訪問支援チェックリスト①

学 校 名		校長名	
住 所			
電 話 番 号			

該当する項目に○をしてください

学習面	学習面	学習面
○	該当学年の漢字の理解が難しい	文章を読んで内容を理解することが難しい
	算数や教科書の文字を覚えるのに時間がかかる	文章を書くことが苦手である
	一斉指示の理解が難しい	計算が苦手である
	自分の言いたいことを順序立てて話すことが苦手である	基本的な図形概念の理解ができない
	文章を音読することが難しい(漢字・ひらがな・発音)	学年相応の表現力で絵を描くことが難しい

行動面	行動面	行動面
○	教師の指示に従って行動することが難しい	こだわりがある(予定、環境、興味、興味)
	集団活動に参加しないことがある	いつも行動が遅れる
	授業中、席を空いたり、椅子をガタガタするなど、落ち着きがない	静かにしなければならない場面で騒ぐ
	色んなことをする	行動の始めと終わりの切り替えが難しい
	話を聞いていたり聞いたりする	みんなの話をよく聴くための行動をする

※印刷部資料で、変更が必要であればお寄せください

【図3】訪問支援チェックリスト①

該当の項目に○をつけて下さい。(複数回答可)

No.	内容	問題ない	少しだけ問題がある	よくできています	わからない(不明)	記入がない(未実施)
1	軌立によって、はし、フォークなどを使い分けることができる					
2	食事前や排泄時に手洗いをすることができる					
3	手洗いの後、手を拭くことができる					
4	テーブルを拭くことができる(食事一後片付け)					
5	家族にあいさつすることができる					

【図4】訪問支援チェックリスト②〈生活面〉の一部

相談ケースシート

氏 名	姓 名	通達の学年	支援内容(知的、自・他、興味、興味、その他)
学 校 名			
行 業 界 の 職 業			← 対象児童生徒の情報を記入する
訪 問 先 の 相 談 内 容			← 主訴や相談された事項を記入する
相談日時	相談チームでの支援内容	訪問時の様子	訪問先の振り返り内容(確認事項)
			相談後の状況
	チーム支援検討会検討された内容を記入する		カンファレンスで確認したことや記入する
			訪問支援後の情報を記入する

【図5】相談ケースシート

IV 「相談チーム」による訪問支援実践

【実践① 小学校 通常の学級への支援】

- 1 児童の状況
学習内容がわからず授業中話し出す児童や、クラスの友達とのトラブルが絶えない児童、また一斉の指示では聞き逃すことが多い児童などが学級に複数在籍しています。
- 2 相談チームの編成
訪問支援担当者を中心に対応することで、毎月行われている校務部会の時間を使い、訪問支援経験を生かした支援の手立てを検討することができました。

支援センター部員 訪問支援担当者	支援センター部員 発達・学習支援 訪問支援経験者	支援センター部員 発達・学習支援 訪問支援経験者	支援センター部員 発達・学習支援 訪問支援経験者	支援センター部員 体の動きに関する相談 訪問支援経験者	支援センター部員 就学支援 訪問支援経験者	支援センター部員 発達検査 訪問支援経験者
---------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------	-----------------------------

【図6】実践①における相談チーム

- 3 相談チームからの提案と効果

【表2】チームで検討された提案と提案後の効果（一部抜粋）

相談チームからの提案	教師の取組	児童の変容
・席替えを実施し、子ども同士の学び合い、支え合いができる配置にする。	・席替えを実施した。	・授業中、学び合い、支え合いの場面が多くなり、全体が授業に向かう姿勢になった。
・授業の目標を明確にし、取り組むべきことを確認する。	・児童への目標を再検討し、できたことへの賞賛を増やす。	・授業で発言をする機会が増えた。授業内容が分かることで情緒の安定した児童が増えた。

個別への対応よりも学級全体への支援を行うことで、学級全体に落ち着きが見られるようになってきました。

【実践② 小学校 特別支援学級（知的障がい）への支援】

- 1 児童の状況
トイレ一人で行くこと、給食で嘔吐が見られるようになってきた児童です。
- 2 相談チームの編成
対象児童が小学生であったことを考慮し、【図7】のとおり、支援センター部を中心に、小学部の訪問支援経験者1名、学習・発達支援の相談可能な小学部教職員3名、計5名全員小学部で編成しました。日頃の指導実践を生かした支援の手立てが提案できることや同じ学部の教職員にすることで、日程調整しやすいという効果がありました。

支援センター部員 小学部担当 訪問支援担当者	発達・学習支援等 小学部担当 訪問支援経験者	発達・学習支援 小学部担当 (教職10年未満)	発達・学習支援 小学部担当 (教職10年未満)	発達・学習支援 小学部担当 (教職10年以上)
------------------------------	------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

【図7】実践②における相談チーム

- 3 相談チームからの提案と効果

【表3】チームで検討された提案と提案後の効果（一部抜粋）

相談チームからの提案	教師の取組	児童の変容
・少しずつ一人で行動できる距離を長くする。	・トイレの外で待つ、途中で待つなど工夫し、一人で行くことを促した。	・途中の教室に立ち寄りたりすることはあるが、一人でトイレに行くことができるようになった。

トイレや給食の支援の手立てを検討し、スモールステップで取り組むという目標設定を相談者（担任）へ示すことができました。

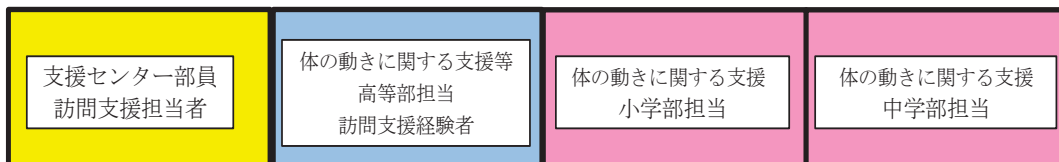
【実践③ 小学校 特別支援学級（肢体不自由児）への支援】

1 児童の状況

肢体不自由があり，手指機能に課題がある児童です。

2 相談チームの編成

肢体不自由児を対象とした訪問支援経験者と体の動きに関する相談対応が可能な教職員でチームを編成し，障がい種に応じた支援の手立てを検討しやすいようにしました。また，小学部，中学部，高等部の担当者にすることで，将来の生活も意識した話し合いができる編成にしました。



【図8】実践③における相談チーム

3 相談チームからの提案と効果

【表4】チームで検討された提案と提案後の効果（一部抜粋）

相談チームからの提案	教師の取組	児童の変容
・手指機能の向上という課題に対して，パソコンソフトを使用したタイピングゲームなどに取り組む。	・図書委員会で本を貸し出す際の入力係を担当させ，パソコンのタイピング等，取り組める場面を作った。	・タイピング等，手順を覚え取り組んでいる。担任に図書委員会の活動について感想を話すなど，喜んでいる。また，本児の活動は他児に認められる形になっている。

タイピングの活動により，手指機能が向上したことに加え，他児から係での活動が認められ，自尊心向上につながる取組になりました。

V おわりに

本研究は，ケースに応じて，相談チームを編成しました。相談チームの教職員による複数の視点で支援検討を行うことは，訪問支援における支援の手立てが充実することが明らかになりました。また，教職員においては，訪問支援について携わる機会や，障がい及び児童生徒の環境の応じた支援についての研修の機会になりました。チームで支援の手立てを検討することは，多様な相談に応えるだけではなく，OJT（On the Job Training）の場や，訪問支援担当者の育成の場になりました。

センター的機能において，多様なニーズへの対応が可能な校内体制を構築するために，この研究が少しでも役立てられたら幸いです。なお，当センターのWebページに，研究内容や様式（前頁の訪問支援チェックリストや相談ケースシート）等，掲載しておりますので，ご覧ください。

【岩手県立総合教育センターWeb ページ <http://www1.iwate-ed.jp>】